

平成29年度伊丹市立松崎中学校 自己評価

1 校訓

盡己

2 学校教育目標

すべてのことに全力で取り組む生徒の育成

3 本年度の経営方針

校訓「盡己」の具現化をめざして、授業、行事、部活動を教育活動の3本柱とし、「一生懸命勉強する」「優しい心を持つ」「感動する」生徒を育成する

4 自己評価結果

目標	アンケート番号			評価の観点	評価項目	取組と成果	各観点の評価	目標達成度	課題・改善方針				
	生徒	保護者	教職員										
「一生懸命勉強する」生徒の育成	④	②	④	①学力が身につく授業実践	教員の授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の研究授業を実施した。 ・全員が年に1回公開授業を実施した。 ・研究授業に向けて、教師を対象としたプレ授業を実施した。 ・公開授業参観は、教科内は必ず、他教科でも空き時間の教師は参観することとした。 	2	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 ・「学力向上のために授業の工夫をしている」と回答した保護者が79%（昨年度75%）で、やや上がっている。授業改善の取組については伝わっている部分もあると考えられる。しかし、「授業が楽しくわかりやすい」と回答した生徒が73%（昨年度73%）、学年別生徒では1年生が74%、2年生が70%、3年生が76%で、全学年、昨年度と比較して低い授業評価であり、教員のさらなる授業改善が求められる。 【改善方針】 ・研究推進委員会を中心に、家庭学習や、学習内容の振り返りと定着について改善策を提案する。 ・職員全員が新指導要領の理解を深め、実践に移すための研修を実施する。 ・授業の中で個別指導する場面を工夫し、自尊感情も向上させる。 ・教科内だけでなく、教科間による授業参観を設定し、指導改善を行う。 ・指導案の趣旨や作成について共通理解を深めるためにガイドを作成したり、研修会を実施する。 					
	⑥	④	⑥		計画的な研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・校区の幼稚園、小学校教員との合同研修会を実施し、校種間の指導の継続性を図った。 ・平成31年度の道徳の教科化に向けた研修を実施した。 ・QUの分析に向けて、3回研修を実施した。 ・外部講師による、不審者対応研修会、業務改善研修会を実施した。 ・教科部会を月2回定例化し教科部会報告書を毎回必ず提出して報告するシステムを開始した。 ・研究授業に向けて、指導案の事前検討会と、プレ授業を実施した。 ・「生きる力」に関する教科横断的な内容について、一覧表を作成した。 							
					生徒指導が機能する授業実践	<ul style="list-style-type: none"> ・「ペア・グループ学習」を取り入れ、生徒指導の三機能（自己存在感、共感的人間関係、自己決定）に視点を置いた教師独自の手持て（工夫）を明記した指導案を作成し、全ての教師が公開授業を行った。 ・「授業前後の生徒の姿容」、「本時の目標」、「学習の必要感」の明示、「ゆさぶり」の場の設定などを新しい指導案様式に記載した。 ・本時の目標と本時のまとめの表示を各教室に設置した。 ・全職員による公開授業を実施した。 							
	⑦	⑤		②読書活動	図書室の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・スキャナ機能付きプリンタを導入し、図書の複写がその場でできるようにし、資料活用をスムーズにした。 ・作業用の机と椅子を配置し、図書委員の作業効率を上げた。 ・学校支援ボランティア制度のボランティアにより、新刊本へのバーコード添付、図書整理を推進し、図書室環境を大幅に整備した。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 ・「学校は朝の読書や、図書室の利用など読書に力を入れている」と回答した生徒は82%（昨年度は81%）で、依然として5人に1人ほどは図書室利用や読書啓発について十分な改善ができていない。 【改善方針】 ・全ての教科で図書室を利用できるよう、「調べ学習の拠点」として整備する。 ・生徒が読書をおして満足感や充実感を実感できることをねらいとして、図書委員によるポップなどの作成で本を紹介する取り組みを進め、読書の意識付けや、図書選択について工夫する。 					
					読書量の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・貸出冊数(4～12月)は昨年度4691冊、今年度4933冊で242冊増加(今年度1学級減)。生徒1人あたりの平均冊数、昨年度7.2冊、今年度は8.3冊。読書量は向上傾向にある。 ・図書室の利用促進にむけて、図書委員の生徒を積極的に活動させた。 ・2、3学期に9日間、7時30分からの「早朝開館」を実施。生徒の利用機会を増やした。また2学期に5日間「図書館フェスティバル」/「しおりコンテスト」を実施し毎日100名程度の生徒が参加した。 	3						
		⑬⑭	⑩⑪	①	③進路指導	進路指導体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・新通学区域変更以降の、データを分析し職員で共通理解を徹底した。 ・2学期、私立高校13校による「出張オープンハイスクール」を実施。生徒は、個々の希望で3校選択して説明を聞き、志望校決定のきっかけにした。 ・「進路通信」、「進路ナビ」を発行し、進路情報を提供しオープンハイスクールの計画的な参加を促した。 ・保護者に進路選択を幅広く情報提供する目的で、あらゆる校種の進路の紹介冊子を生徒数分準備し、学年全員に配布。 	3	<ul style="list-style-type: none"> 【課題】 ・学習タイムが単発になっており、行事によって抜けたりして効果的な学習にならなかった。 ・旧伊丹学区外の高校を希望する生徒の増加に対応し、進路実績が少ない高校についても指導できるよう、情報収集しなければならない。 【改善方針】 ・年間行事計画において、欠時や行事を精選し、教科時数を確保する。 ・学習タイムについては、各学期テスト前5日間を2回設定し、学習時間を30分にする。集中的、かつ、より効果的に学力の定着・向上を図る。 ・キャリア学習ノートを活用するなどして3年間を見通したキャリア学習を計画的に推進する。 				
	④			④学習タイム		<ul style="list-style-type: none"> ・授業の学習内容に即した確認テストやテストに向けたプリントなどを15分で実施し、基礎基本的事項の定着を図った。 	2						
学校関係者の意見	【良い点】				<ul style="list-style-type: none"> ・年3回の授業研究に対してプレ授業および事前研修を実施するなど取組体制に改善が見られる。 ・各学年共に授業態度が落ち着いていて良い。 ・学校の目標がわかりやすくて良い。 ・全教師の授業公開は人間関係も築けて授業力アップにもつながると思うので継続してほしい。 ・教員の授業力向上のために、教員一人一人が意識して授業改善に取り組み学ぶ意欲の向上に努めていた。 ・教員の授業力の向上への取り組みは評価できる。 	【課題】			<ul style="list-style-type: none"> ・「学校へ行くのが楽しい」と思っている生徒が減少している原因について授業面からの分析が必要であるが、その分析ができておらず、またその課題認識も教師間で共有されていないのではないかと。 ・自己評価にもあるが学習タイムを授業時数に組み入れているにもかかわらず、単発に終わっている現状から見ると教師の取組意識に問題があるのではないかと。 ・教員の「個」の力にばらつきがある。同教科でも教える教員により、生徒の興味・持ち方に差が出る。 ・評価として授業の効果が上がってきていないので、さらなる改良と研修の工夫が必要と思われる。 	【改善策】			<ul style="list-style-type: none"> ・ペア・グループ学習はアクティブ・ラーニング型の授業の一つであるが、形だけに終わらせないよう生徒指導の機能を入れるためにグループ・エンカウンターを授業に取り入れる必要がある。 ・学習タイムで実施する教科の年間計画で、取組内容を可視化して、計画的に積み上げる学習であることを教師も生徒も意識する必要がある。 ・生徒と保護者はわかりにくい授業と思っているのだから、教師は評価結果を理解し、変化のある努力した授業を望みます。 ・小学校からの学習の積み重ねが大切なので小学校との連携した取組が必要である。 ・授業力の向上のために、匿名でアンケートをとり、「授業が楽しくわかりやすい先生」を明らかにする。それにより生徒ウケするポイントを研究し、「個」の能力の向上につなげる。 ・生徒にとってわかりやすい授業の改善に向けて、学年ごとの研修ではなく外部からの研修も必要である。

目標	アンケート番号			評価の観点	評価項目	取組と成果	各観点の達成度	目標達成度	課題・改善方針	
	生徒	保護者	教職員							
「優しい心を持つ」「感動する」生徒の育成				①部活動	部活動の活性化 部活動とおとしての仲間づくり	・市内最多の部活動19部が活発に活動した。 ・阪神大会12、県大会6、近畿大会2、全国大会2の部活が出場し、好成績を残した。 ・ノー部活デー(毎週月曜日と月2回(土・日))を設定して、適度な休養を設け、けがの防止や効率的な体力の向上に努めた。 ・生徒下足場掲示板に部ごとの結果を掲示して広報した。 ・校長室前に表彰者の写真を掲示して生徒を顕彰した。 ・日常の活動だけでなく、夏祭り、餅つきなどの地域行事に参加するなど、地域の小学生や大人との交流ができた。(部活動生を中心に延べ340名(12月末現在)の生徒が地域ボランティアに参加)	4		【課題】 ・入部率が昨年度86%から本年度71%に低下(地域のクラブチーム所属が増加)。 ・お互いが高め合える集団としての活動を計画的、系統的にできていない。 ・自己存在感を育てる場面設定が十分にできていない。 【改善方針】 ・新入部活動紹介時に、部活動の意義、ノー部活デーの過ごし方、学習との両立などについて指導し、啓発する。 ・部活動懇談会においてノー部活デーの過ごし方、家庭での手伝いや家庭学習に取り組む啓発を行う。	
	③	③⑬	③	②学校行事	生徒の自己存在感、充実感、達成感の育成	・「子どもは学校行事に積極的に参加している」と回答した保護者95%。「学校行事は楽しい」と回答した生徒92%。多くの生徒が行事に前向きに取り組めた。 ・「学校行事が生徒にとって価値ある体験となるよう工夫・改善を行っている。」と回答した教職員100%。生徒の自己存在感、充実感、達成感を育成するための手立てを考えたことができたと考えられる。 ・「自分には良いところがある」と回答した生徒が70%に上昇(H28.67%)。自己肯定感が向上した。 ・「盡己賞」を創設し(11名)表彰した。	4		【課題】 ・行事後の指導やその時間確保について計画的見通しを持って取組めていない。 【改善方針】 ・学年を中心として、学年集会などを計画的に運営して、日々、個々の生徒の頑張りに声をかけを行う。 ・生徒のリーダーを中心とした企画委員会を開き、課題を出し合い、生徒主体の学年集会を毎月行い、呼びかけさせる。	
	⑩⑪	⑦⑧	⑦⑧	③生徒指導	生徒指導体制の整備 いじめ、問題行動への迅速な対応 不登校への計画的な対応 家庭との連携	・週1回の生徒指導委員会で情報共有し、指導・対応を行うことができた。 ・SC、SSW、関係機関と連携した指導ができた。 ・いじめアンケート調査を年5回実施した。また「にこちゃんカード」を改良し週1回実施することで、実態把握し早期発見・早期対応、再発防止にむけた継続的観察と、指導に努めた。 ・いじめ防止週間を年2回実施し、同時期に教育相談を実施した。 ・生徒会による全校的な取組として「心のコップ プロジェクト」を行った。 ・携帯、スマホによるトラブル防止に向けた講演会を2回実施した。 ・問題行動に対して、迅速かつ組織的に対応した。 ・生徒指導委員会での情報交換と協議をもとに、個々の態様に応じて別室指導、面談、家庭訪問等を行い、必要に応じて、関係機関と連携を図った。 ・別室登校、時差登校など、個々の生徒の状況に応じた取組を行った。 ・電話連絡、家庭訪問等、家庭との連絡を密にした取組を行った。 ・SC、SSWと連携し、家庭へのサポートや助言に努めた。	3		【課題】 ・長期欠席者数1年4、2年17、3年14、計35人(H29.1末)H28、29人。 ・「学校の決まりについて公平に指導している」と回答した生徒80%(昨年度81%)、 ・「学校が一貫した生徒指導を行っている」と回答した保護者80%(昨年度80%)、 ・「決まりや社会のルール、マナーについて指導している」と回答した教師が96%(昨年度100%)、「問題行動に対する指導体制が整備されている」と回答した教師66%(昨年度66%)、2学期末に職員対象に指導体制について改めてアンケートを実施し、他学年の情報を共有する体制について見直した。 ・生徒間でSNSを使用したトラブルは昨年に引き続き起きている。 【改善方針】 ・「問題行動には汗をかき」「不登校には足を使う」個々の対応ではなく、複数で対応する」を徹底して実践。職員間での情報交換を密にし、指導の差異を生まない。 ・生徒指導が機能する授業、行事、部活を実施する。 ・学年の生徒指導担当を中心に、学年会議で他学年の情報共有に努める。	
		⑫	⑨	⑩⑭	④教育相談	生徒理解のための取組 スクールカウンセラー等との連携	・学期に1回、教育相談週間・いじめ防止週間を同時期に設定し、生徒の状況把握に努めた。また、今年度よりQJを実施し、生徒同士の人間関係を把握し、メンタルな援助を必要とする生徒に必要な対策を講じた。 ・毎週木曜日実施の「にこちゃんカード」を改良し、生徒の心の状況の把握に努めた。 ・毎週、スクールカウンセラーによる、生徒、保護者のカウンセリングと、教師のコンサルテーションを実施し、適切な助言を受けることができた。 ・今年度から、毎週、SSWが生徒指導委員会に入り、教員・保護者・SC・関係機関との連携を深めた。	3		【課題】 ・「先生は生徒の悩みや不安に対して相談ののってくれる」と回答した生徒の割合は1年生74%、2年生77%、3年生85%で、低学年の割合が低い(H28、77%)。「学校には子どものことについて相談できる先生がいる」と回答した保護者71%(H28.66%)。「悩みや不安を抱えている生徒の相談ののっている」と回答した教師87%。教師の認識にずれがある。 【改善方針】 ・教育相談や「にこちゃんカード」を活用し、個々の状況を職員間で共通理解する。 ・教師はカウンセリングマインドで、教師側からこまめに生徒に声をかけして、生徒が相談しやすい雰囲気作りを心がける。 ・保護者には三者懇談で、本校の相談体制のPRにつとめ、日常的にきめ細かに家庭訪問などとして連携を図る。
				⑤特別支援教育	指導体制の確立 個別の指導計画の作成	・特別支援コーディネーターを中心に教育支援委員会を定期的に開催し、支援の必要な生徒の実態把握、支援内容の検討等、適正な教育支援を行った。 ・特別支援教育支援員が、普通学級での要支援生徒に対して、計画的な支援を行い、支援状況を毎日学級担任に活動報告として伝え、担任が学級指導に活用した。 ・特別支援コーディネーターと特別支援教育支援員が連携、情報共有し個別の指導計画を作成し活用した。 ・特別支援学級の生徒、普通学級における支援を要する生徒について個別の指導計画を作成した。	3		【課題】 ・普通学級における要支援生徒に関する個別の指導計画の作成が、特別支援教育支援員の関わる生徒のみになっている。 ・個別の指導計画が、支援対象生徒に対する継続した支援に充分活用されていない。 【改善方針】 ・個別の指導計画を学年会、校内研修会で活用し、ファイリングすることにより個別の教育支援計画として整備する。 ・特別支援教育支援員の支援状況を学級担任および教科担任が把握し、学級での指導や保護者との連携に活かすよう報告書を回覧する。	
				⑥生徒会活動	生徒会活動の活性化	・毎朝、生徒会役員を中心に、挨拶運動や校歌の放送、国旗、市旗、校旗の掲揚を行った。 ・全校集会の司会、整列指示、退場指示を生徒会役員が行い、自治活動が定着している。 ・いじめ防止強化週間で、「グリーンアップ」「心のコッププロジェクト 第一弾～ほめ言葉～、第二弾～感謝～」を企画・実施し、生徒会が主体となった取り組みを進めた。 ・各委員会で、点検活動やイベントを企画したり、見直しを行ったりして、全校生徒が生徒会の一員として積極的に活動に参加できるように工夫した取り組みができた。	3		【課題】 ・本部役員や学級委員以外の生徒が生徒会の一員として、学校生活を活性化しようという考え方が十分に浸透していない。 【改善方針】 ・本部役員や委員を中心に定着してきた自治活動を、一般の生徒につなげていけるような制度を発展させる。 ・各学級生徒全員が生徒会組織のいずれかの役割を担うように、学級経営において分担し、行事等でその組織を活用する。	
		⑯	⑬	⑬	⑦健全な食生活	早寝・早起き・朝ごはんへの取組	・横断幕を作成し、生徒、保護者、市民への啓発を行った(すこやかネットまつぎ)。 ・教科指導において、偏りなく栄養摂取ができるバランスのよい食事について食育指導を行った。 ・12月に給食参観を実施した。	3		【課題】 ・朝食を毎日食べている生徒が(H27.93.6%→H28.92.5%→H29.90.7%)、毎年やや減少している。 【改善方針】 ・学校便り、学年通信等で実態を周知し、PTAと協力して、早寝・早起き・朝ごはんの啓発活動を行う。
	学校関係者の意見	【良い点】 ・校長のリーダーシップでボランティア組織をつくったことで生徒が活躍できる場面が増え、自尊感情の育成につながった。 ・盡己表彰は生徒の励みになってよい。 ・部活動で多くの賞を取り、文武両道で素晴らしい。 ・体育大会や文化発表会で生徒と教師の一体感は親している者に達成感と感動が伝わってきた。 ・校舎内が清潔で、どの教室も整理整頓され気持ちが良い。 ・廊下の掲示もきれいで見やすい。 ・各学年とも自尊感情が向上して良い。 ・生徒が自主的に行動するのが良い。 ・あいさつ運動、「グリーンアップ・カップ」等であいさつの大切さ、意識改革に力を入れた。 ・部活動、学校行事は活発に実施されている。 ・地域ボランティアへの積極的な取組も評価できる。			【課題】 ・生徒指導が機能する指導体制の意味を各教師が十分理解できていないのではないか。一人一人の良さを見つけ、それを生かす手立てを見つめる努力不足が、集団になじめない生徒に対しての指導に苦慮している状況を生み出しているのではないかと。 ・保護者の参加が少ない。あいさつをしない生徒も多く、まだまだ伸びしろがある。 ・自己存在感を持ってもらうための地域ボランティアへの積極的な参加の継続の維持。 ・2学年に対する全体活動として宿泊を伴う行事の開催。(クラス、一体感の共有など)			【改善策】 ・問題行動に対する指導が増えている状況に対しては、授業・行事・部活動の有機的なつながりが必要である。行事と部活動は目標が生徒にとってわかりやすいが、授業は見えにくい3年間の授業計画を学年間の教師で作成し、次期学習指導要領で示されている学び方および3年生を修了する時点で身につく力を明示して共通理解する必要がある。 ・朝食抜きの生徒がいることから三者が一体となりそれぞれが責任を持って役割を果たさなければならない。 ・あいさつ運動の保護者、生徒ともに参加者を限定しない(当番をそのままにしておく)。 ・教師しかタッチできない部分、生徒指導や特別支援教育等の充実には教師の経験値を持った人が研修し継承していく努力が必要。 ・是非とも2学年は宿泊を伴う行事、林間学校等を計画する。		

目標	アンケート番号			評価の観点	評価項目	取組と成果	各観点の達成度	目標達成度	課題・改善方針
	生徒	保護者	教職員						
開かれた・信頼される学校づくり	①	①	①②	①学校運営協議会	学校経営への意見反映	・前校長と教頭をメンバーに追加し広く意見を伺った。 ・年4回(H28.3回)定期的に協議や生徒参観を実施した。 ・各種学校データを公開し学校の現状を把握いただいた。 ・次年度の学校経営方針について協議し承認を得た。 ・「地域ボランティア・サポーター制度」について協議し承認いただいた。	3		【課題】 ・学校運営協議会について教職員、保護者の理解度が低い。 ・柔軟で創造的な熟議の方法を実施できていなかった。 【改善方針】 ・メンバーを増やし、学校だより、HP、PTA各種会議で説明広報する。 ・協議方法についてワークショッププログラム等を取り入れて、創造的かつ協働的な会の運営準備をする。
				②学校評価	PDCAサイクルの実行	・7月に中間アンケートを、11月に学校評価アンケートを実施した。 ・夏季校内研修会において、学年毎に7月の中間結果の反省と改善策を協議した。 ・11月にワークショップ型校内研修会を開催し、11月の学校評価結果について、各学年毎に3学期の具体的な取組を協議し発表し合った。 ・カリキュラム・マネジメントの観点から、学校評価結果をもとにした本校教育目標の具現化に向け、職員の共通理解を図った。	3		【課題】 ・新年度の指導・推進計画の改善にむけて、前年度の評価結果を具体的、効果的に生かしてなかった。 【改善方針】 ・研修会および学年会で課題を分析し、提案した改善策を踏まえ、より具体策を創造し、実行できるように、こまめに取組を改善するための学年会の時間を確保する。 ・平成31年度道徳の教科化や、新学習指導要領移行を見据えつつ、年間行事計画に校内研修を毎月設定し、各分掌の実践を検証し、改善していく。
		⑮⑱	⑳～㉓	③保護者・地域との連携	地域への公開、参観授業の実施 生徒、教師の地域行事への参加 学校からの情報発信	・学期1回の土曜オープンスクールの実施。 給食参観の実施。 ・「松中地域ボランティア・サポーター制度」を設け、部活動生徒を中心に地域行事への参加を計画的・継続的にを行い、参加意識が高まった。(参加人数延べ340人) ・学校だより、学年通信、学級通信を定期的に発行し、学校情報の発信を行った。 ・学校HPの更新をこまめに行いアクセス件数が大幅に増加した。12月までのHPアクセス数24000件。1か月アクセス平均1人13.6回。 ・校区内3小学校区自治会長会・理事会に管理職が毎月出席し、学校教育活動に関する情報提供を行うとともに、地域の意見聴取、地域との情報共有を行った。 ・「地域ボランティアサポーター制度」を実施し表彰(74人)した。	3		【課題】 ・地域行事へ参加していると回答した生徒が36%(昨年度28%)。伊丹市の30%より上回ったが、全国の42%には至っていない。 ・2学期の土曜オープンスクールが、高校のオープンスクールおよび部活動の公式試合と重なり、30名の欠席が出た。 【改善方針】 ・地域行事へ参加していると回答した教師が77%にとどまっているので、教師の参画意識を高める。 ・PTAとの連携を図り、親子で地域行事への参加を呼びかける。 ・生徒会活動として、地域行事への参加の取組を強化する。
学校関係者の意見	【良い点】 ・学校から地域への情報発信と併せて、生徒ボランティアによる地域行事への参加はこれからの地域と学校のつながりづくりや、生徒の自尊感情の醸成にもなっている。 ・学校だよりが丁寧でわかりやすい。 ・大勢の生徒が地域のボランティアに参加し積極的に動いている姿はたくましく思える。継続してほしい。 ・「地域ボランティアサポーター制度」の導入。 ・生徒、教師の地域行事の参加が積極的である。			【課題】 ・カリキュラム・マネジメント＝学校評価ではなくチーム学校としての人的マネジメント、教科間における授業マネジメント、学校施設・設備(備品)面でのマネジメント等、学校運営全てのマネジメント(管理・運営)であることが各教師が理解していないのではないか。 ・部活動単位での参加が多く、部活動の団長として参加しているという意識が根付いてしまうことが懸念される。もっと自由に誰でも参加できる体制を整える必要がある。 ・本年度開始した取組を継続して取り組んでほしい。			【改善策】 ・学校教育活動へ地域からの参加、地域諸事業への学校からの参加といった双方向の関わりについて、松中に合った方法を教師と生徒が考え、松中校区ならではのコミュニティ・スクールを推進していく必要がある。 ・自己評価特記事項として、評価から見える課題を整理し、課題の重要度に基づいた解決策を明記してはどうか。 ・管理職は学校運営や人事に責任を持ち、学校運営協議会は学校が進む方向への応援団でありたい。 ・中、小学校のCSメンバーが合同研修会をするのも良いと思う。 ・個人でも参加しやすい環境作り。ボランティア、地域活動、奉仕の精神の大切さを広く知ってもらおう活動。 ・講演会などで地域の人にもっと気易く尽力してもらおうように体制を整える。 ・「ボランティア・サポート」要員の確保。 ・学校運営協議会のメンバー増強。 ・さらなる地域連携のために各小学校にも発信していく。		
・アンケートの分析から課題(問題点)を整理して対策を講じたが、対策案の実行が大切である。それぞれの対策に対してしっかりとPDCAをまわして、良い成果を期待する。									

※ 項目の評定については、生徒、保護者、教師のアンケート結果等から判断し評価する
(4:達成されている 3:ほぼ達成されている 2:あまり達成されていない 1:達成されていない)

4 自己評価における特記事項

<p>・生徒アンケート結果(全学年)の経年比較(H27→H28→H29) 「学校へ行くのが楽しい」 86%→87%→84%、「学校行事は楽しい」 92%→91%→92%、 「授業はわかりやすく楽しい」72%→73%→73%、「先生は生徒の悩みや不安に対して相談にのってくれる」78%→78%→79%</p> <p>・アンケートにおける主な項目推移(H28→H29) 「授業はわかりやすく楽しい」・・・第3学年80%→76%、第2学年85%→70%、第1学年81%(H29.7)→74% 「生徒の悩みや不安の相談に乗ってくれる」・・・第3学年78%→84%、第2学年84%→77%、第1学年67%(H29.7)→66% 「自分には良いところがある」・・・第3学年74%→78%、第2学年73%→66%、第1学年60%(H29.7)→61%</p> <p>・前年度より低下している項目については、「生徒への個別対応」や「一斉指導による授業」等、指導の工夫や授業改善に課題が見られる。生徒個々の状況を丁寧に把握し「具体的な改善方針」を実践し、本校研究主題である、ペア・グループ学習による「生徒指導が機能する授業実践」について、全教員が改めて「授業改善を徹底」しなければならない。</p>
--